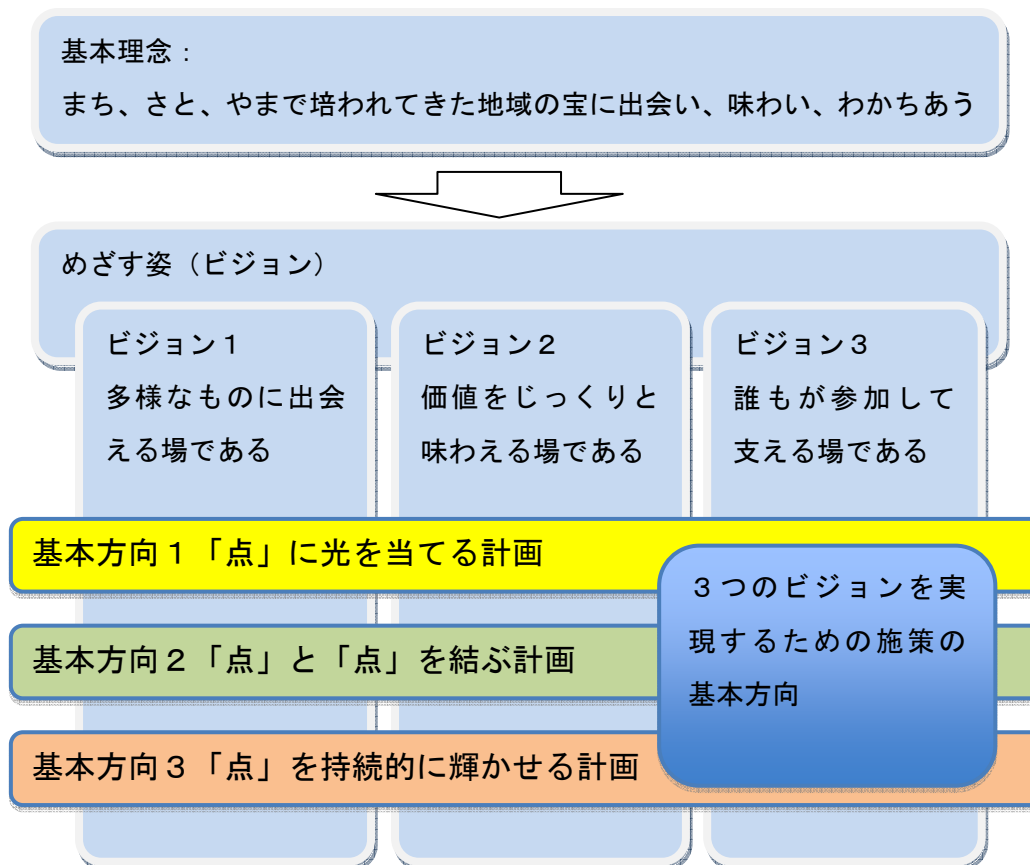


# 伊賀市観光振興ビジョン 検討会議資料

2011.11.1

## 【伊賀市の観光振興の基本方向】



## 推進計画（案）の骨子

### 【テーマ別計画（施策の体系）の考え方】

#### 「点」に光を当てる計画

伊賀市の各地域の特色を踏まえ、歴史、暮らしの文化、自然や農林業、文化・アートなどの諸分野で伊賀を特色づける要素のひとつひとつに光を当てる。

#### 「点」と「点」を結ぶ計画

個々の資源を相互に結ぶことによりテーマ性豊かな観光スタイルを創造。またそのための移動手段や情報発信、交流促進など、ハード、ソフト両面で資源を結ぶ。

#### 「点」を持続的に輝かせる計画

持続性のある観光を支えるため、組織体制を強化しつつ、市民や観光客など多様な主体の参加を促す。

# 1 ■ テーマ別計画

## 1-1 「点」に光を当てる計画

総合的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個々の観光資源の点検、改善、発展の取り組み</li> <li>■ 市民の「伊賀再発見」を促す啓発的な取り組み</li> </ul>
歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 伊賀がもつ歴史的資源の活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上野城と藤堂高虎</li> <li>・ 忍びの歴史背景とその生活</li> <li>・ 松尾芭蕉の足跡</li> <li>・ 街道</li> <li>・ その他</li> </ul> </li> </ul>
暮らしの文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 伝統工芸の体験（伊賀組紐、伊賀焼等の産業観光）</li> <li>■ 城下町、集落の景観（まち歩き、さと歩き）</li> <li>■ 町家暮らし・農家暮らしの体験</li> <li>■ 伊賀の「食」</li> <li>■ 学びの空間（旧小田小、旧博要小、上野高明治校舎等）</li> </ul>
自然・農林業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 農業体験（棚田の景観を守る取り組みへの参加等）</li> <li>■ 林業体験（山林の下草刈り等）</li> <li>■ 農林業体験とセットとなった「食」の楽しみ（米、酒、蕎麦、菜の花等の山の幸、里の幸）</li> <li>■ 野山を歩き四季の草花など自然と触れ合う体験</li> <li>■ 農家暮らし体験、定住者による情報発信</li> <li>■ 温泉と健康づくり</li> </ul>
文化・アート	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 伝統的祭りの継承と発展、情報発信</li> <li>■ 町並み景観を活かしたアート（灯りアート等）</li> <li>■ 伝統工芸を活かしたアート（陶芸、組紐等）</li> <li>■ 写真、絵画、俳句などを通じた地域文化の表現活動</li> <li>■ 地域交流イベントの活用</li> <li>■ 地域に居住する作家に光を当てる</li> </ul>

1-2 「点」と「点」を結ぶ計画

総合的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各地域の観光協会の連携強化</li> <li>■大都市住民へのアピール（関西圏、中京圏、全国）</li> <li>■県内、県外の主要な観光地からの誘客（伊勢、奈良、京都等）</li> <li>■海外観光客の誘客</li> <li>■大きな集客力を持つイベントとの連携（スポーツ観戦等）</li> <li>■さまざまな既存の取り組みの情報共有、連携</li> </ul>
ミニ観光圏づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■広域観光圏の構築（甲賀、名張等）</li> <li>■テーマ性のある観光コースづくり（街道、芭蕉など）</li> <li>■地域内の観光資源を結ぶコースづくり</li> </ul>
移動手段と移動空間の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■観光用駐車場の確保と案内機能の強化</li> <li>■鉄道の観光利用の促進、沿線景観の活用</li> <li>■自転車でめぐるネットワーク形成（サイクリングルートの設定と情報発信、レンタサイクルの利用促進等）</li> <li>■歩いて楽しいまちづくり</li> </ul>
テーマ性豊かな交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農山村と都市住民の交流促進（河川水源地域と下流都市地域との交流等）</li> <li>■「芭蕉」、「忍者」など国際的に認知された観光資源に関する国内、海外との交流促進</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各地域の観光情報の一元的発信</li> <li>■市民が各地域を互いに知る体験の促進</li> <li>■観光案内拠点機能の強化（駅前再開発ビル、集客施設等を拠点とした案内機能の強化）</li> <li>■多様な対象へ向けてのきめ細かな情報提供（外国人、障害者、高齢者、子ども連れ、ペット連れ等）</li> <li>■地域間のタイアップによる情報発信</li> </ul>

### 1-3 「点」を持続的に輝かせる計画

市民の参加促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■若い世代の参加促進（高校生の参画、小中学生の啓発等）</li> <li>■シルバー世代の人材活用</li> </ul>
外部の参加促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大学との連携</li> <li>■サポーター制度づくり（ウーフ制度【※】の活用等）</li> </ul>
組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■既存の観光、まちづくり組織の活用と連携（町家みらいセンター、忍者コンテンツ開発センター等）</li> <li>■観光の取り組みに関する自主運営体制の強化と、協働の促進</li> </ul>

#### 【※】ウーフ制度について

WWOOF（ウーフ）とは、World Wide Opportunities on Organic Farms（世界に広がる有機農の機会）の略で、お金のやりとりなしで、「食事・宿泊場所」と「労働力」や「知識・経験」を交換する仕組みで、登録制度によって運営される。

主として有機農業や、環境保全活動の体験を通じた人の交流を促す仕組みであり、英国で1971年に開始、国際的に広がりを見せている。日本でも全国で約400カ所の受け入れ先がある。有機農家だけでなく、農家民宿、農家レストラン、自然体験学校、陶芸工房なども参加している。

## 2 ■ 他産業・他分野との連携計画

- ・ 農林業の振興、担い手づくりとの連携
- ・ 伝統工芸と観光の連携（産業観光、食やアートとの連携等）
- ・ 学校教育、生涯学習との連携（人材育成）
- ・ 城下町や集落の景観、環境保全への観光客の参画
- ・ バリアフリー観光に対応した情報提供や人材確保
- ・ 国際交流活動と観光の連携

## 3 ■ アクション・プロジェクトの展開計画

重点的かつ優先的に取り組むべき施策としては、下記に挙げる事項を踏まえることとする。

### 【重点的に取り組むべき事項】

- インバウンド（外国人誘客）
  - ・ “忍者” など国際的に知名度のあるテーマ別観光の魅力拡充を図り、海外からの観光客誘客へ向けての情報発信
  - ・ 外国人観光客の満足度向上のための環境整備
- ニューツーリズムの拡充
  - ・ “産業”、“歴史・文化”、“自然と健康”“農林業と食”など、豊かな地域資源を活用したテーマ性の高い観光スタイルの提供
- ミニ観光圏の創造、展開
  - ・ 市内に分散する多様な資源を結び回遊するミニ観光圏の創造
  - ・ 甲賀市、名張市など近隣市町村との連携強化
  - ・ さまざまなテーマに基づくサミットを通じた広域連携

### 【緊急性の高い事項】

- 行政、事業者、市民の中間的組織としての観光協会の一体性強化を含めた、体制の再構築
- 各地域間で情報を共有し、市民誰もが伊賀を改めて再発見するための「気付きの機会」づくり
- H24～H26 の伊勢遷宮へ向けた誘客体制づくり（情報発信）